

平成18年8月8日  
林 野 庁

## 平成18年度林野庁主催国際会議の結果概要について

### 1. 時期・場所・参加者等

平成18年7月24日(月)～28日(金)、札幌において、林野庁が主催し、「世界の持続可能な森林経営の推進に向けて」をテーマに、「モンリオール・プロセス第17回ワーキング・グループ(WG)会合」及び「FAOアジア持続可能な森林経営のためのモニタリング・評価・報告(MAR)体制強化事業ワークショップ」が開催され、23か国、4国際機関など海外から49名が参加し、我が国の森林・林業関係者とともに持続可能な森林経営を把握するための「基準・指標」の活用等について検討が行われた。

また、会期中の7月26日(水)に、林野庁、北海道庁、(独)森林総合研究所、国連食糧農業機関(FAO)、国際熱帯木材機関(ITTO)、モンリオール・プロセス事務局の共催で行われたオープン・フォーラムには、行政機関、研究機関、民間企業、大学、NGOなどから235名が参加し、世界の森林・林業の動向に関する最新の報告とともに各国の森林・林業の現状及び持続可能な森林経営の取組状況等について発表・意見交換が行われた。

### 2. モンリオール・プロセス第17回ワーキング・グループ(WG)会合

#### (1) 指標の見直しについて

モンリオール・プロセスに参加している12か国(米、加、メキシコ、ウルグアイ、アルゼンチン、チリ、豪、NZ、日、中、韓、露)すべてが出席し、1995年に策定した7基準・67指標の見直しに関して議論を行い、基準1～6の各指標については、より計測可能で、具体的かつ分かりやすいものとする方向で改訂作業を了し、新たな指標が合意された。2009/10年の国別報告等から、この指標を適用する。

基準7(政策・制度的な枠組みを評価)については、各国の意見の隔たりが大きく今回合意に至らなかったことから、今後、作業チーム(コーディネーターは日本)において検討を継続する。よって、2009/10年の国別報告には、1995年版の基準7を適用する。なお、米国が10月に作業チーム会合をホストし(ワシントンD.C.)、その検討を経て、次回又は次々回WG会合において合意を目指す。

#### (2) モンリオール・プロセス中長期戦略プランについて

中長期戦略プランについては、小グループ(アルゼンチン、豪、加(議長)、チリ、中、日、NZ、米)にて戦略プラン案を策定して、次回WG会合にて合意を目指す。

#### (3) モンリオール・プロセス事務局について

事務局のホストについて、加より2007年1月以降他の参加国が事務局をホストするように要請され、各国からは、これまで12年間の加森林局の事務局ホストについて謝意が表されるとともに、次のホスト立候補国は2007年1月1日までに事務局に通告することが合意された。なお、次のホスト国の任期や持ち回りルール等

については中長期戦略プランに盛り込まれることとなっている。

(4) 次回WG会合等について

次回WG会合の開催国について、アルゼンチン、チリが関心を表明したが最終的な決定には至らなかった。

また、WGの下に設置されている研究者等からなる技術諮問委員会(TAC)会合については、中国、豪が会合をホストすることについて関心を表明した。

3. FAOアジア持続可能な森林経営のためのモニタリング・評価・報告(MAR)体制強化事業ワークショップ

(1) 事業の目的・対象国について

本事業は、アジア・太平洋地域の途上国が森林経営の状況を適切にモニタリング・評価・報告(MAR)する体制を強化するとともに、その成果を政策に反映させていくことを目的としており、我が国からFAOへの拠出金により活動が行われている。

今回は第一回目の会合であり、インドネシア、中国、インド、ミャンマー、カンボジア、フィリピン、タイ、ネパール、スリランカ、パキスタン、パプアニューギニア、モンゴル等が参加した。

(2) MAR強化のための具体的取組について

MARに関する各国の負担を減らし、森林についての国際報告の効率的な実施を確保するために、各国において適切かつ柔軟な国内ネットワークを整備していくこと、フィールドレベルの能力開発、レポートの共通様式、他のイニシアティブ等との協働などについて議論が行われた。

(3) 今後の作業計画について

参加国のMARについての具体的な問題点を整理し、プライオリティー、実施内容を決定するため、10月下旬にバンコクにおいてMAR情報についてのワークショップを開催する予定であり、各国はそれまでにプライオリティー課題リストペーパーを早急に整備することが合意された。

また、MAR関連リモートセンシング技術についての訓練ワークショップを12月にインド・デラデューン(国連リモートセンシング大学、IIRS)で開催する予定である(詳細は今後決定)。